

活動が全土に広がり、全イタリア人が結束する芽ができた。

***ジュゼッペ・マッツイーニ (Giuseppe Mazzini 1805/06～1872/03 ジェノヴァ生まれ)**

政治家、思想家、著作家

ジェノヴァ大学卒業後弁護士になる。古代ローマ共和国を崇拜、ロマン主義者でもある。イタリアの独立と信仰の自由、死刑の廃止等、国民による政治、共和制による統一を目指し1830年炭焼党(カルボネリーア Carboneria)に入り、重要ポストに就く。そしてこの党を再編して、1831年「青年イターリア」という結社を立ち上げ、青年層に大きな影響を与えた。

ヴェルディはゴッフレート・マメーリ(Goffredo Mameli 1827～1849)の詩による小品をいくつか作曲し、G・マッツイーニの要求に応えた。ちなみにG・マメーリの詩「イタリアの兄弟たち」は、彼が戦死する直前に書いたものであるが、1946年国歌に採用されている。作曲はミケーレ・ノヴァーロである。

G・マッツイーニは1848年3月ミラノでの「決起の5日間」へも駆けつけるがその後、統一運動の主流がサルデーニャ王国宰相カミッロ・ベンソ・カヴールの主導の下で始まる。彼はC・B・カヴールのイタリア統一へのきっかけとするサルデーニャ王国、王権政治については最後まで反対した。

***ジュゼッペ・ガリバルディ (Giuseppe Garibaldi 1807/07～1882/06 ニース生まれ)**

軍事家

若きジュゼッペ・ガリバルディはG・マッツイーニの共和制によるイタリア統一に賛同し、共闘するが1848年3月ミラノでの「決起の5日間」後、統一運動の主流がサルデーニャ王国宰相C・B・カヴールの主導の下で始まる。

ここでG・ガリバルディの生い立ちの中でイタリア半島での主な出来事とヴェルディ・オペラ初演を年度別に記し纏めた。

1815年ナポレオン体制崩壊、ウィーン会議(会議は踊る・・・と揶揄された会議)により旧体制を復古することを理念とした王政復古によりオーストリア系の小国がイタリア半島全土で誕生した。

1816年ナポリとシチリア両国をナポレオン体制崩壊後、ウィーン会議によってブルボン家が復帰、統合された。結果ローマ、ボローニャの法王領、サヴォイア家のピエモンテ、サルデーニャ島以外は外国の占領地となった。

1831年「青年イターリア」ジュゼッペ・マッツイーニが結成する。

1832年シルヴィオ・ペッリコ「獄中記」を発表。一般市民、下層階級をも啓蒙活動により覚醒させてゆく。

1842年3月9日「ナブッコ」ミラノ・スカラ座で初演

1843年2月11日「イ・ロンバルディ(第一回十字軍のロンバルディ人たち)」ミラノ・スカラ座で初演

1844年3月9日「エルナーニ」ヴェネツィア・フェニーチェ劇場で初演

11月3日「二人のフォスカリ」ローマ・アルジェンティーナ歌劇場で初演

1845年2月15日「ジョヴァンナ・ダルコ」ミラノ・スカラ座で初演

8月12日「アルツィーラ」ナポリ・サン・カルロ劇場で初演